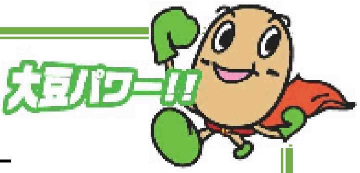
令和７年産 美里地区の大豆情報



第１号　令和７年４月７日

宮城県美里農業改良普及センター
TEL:0229-32-3115　　FAX:0229-32-2225
https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/

１　令和６年産大豆について（ＪＡ新みやぎみどりの統括営農センターより）

表１　品種別生産実績（等級検査実績）

	タチナガハ	ミヤギシロメ	すずみのり	タンレイ	その他	合計
生産量（袋）	64,413	38,728	6,122	330	261	109,854
１等割合(%)	19.6	27.6	8.1	-	55.2	21.8

→管内の大豆は、前年同様に気温が高かったことから開花が早まりました。開花後は前年ほどではないものの少雨傾向となり、高温の影響もあって青立ちが多発し、裂皮粒や充実不足などにより、前年産よりは改善されたものの、上位等級は低めとなりました。

☆作柄に影響した要因

（１）７月から９月の高温多照

生育期間を通じて高温傾向であり、特に７月から９月にかけて、前年とほぼ同程度の高温で推移しました。そのため大豆の生育が旺盛となりました。日照も確保されていたことから、タチナガハを中心に主茎長が長い傾向が見られました。

（２）開花期から子実肥大期の少雨

前年と同程度の高温に加え、開花期以降は少雨傾向で推移しました。前年のような極端な乾燥ではなかったものの、降水量は８月上旬 2.5㎜（平年比 8%）、９月上旬 4.5㎜（平年比 9%）と乾燥気味に天候が推移したことから、百粒重の低下をもたらし減収につながったものと思われます。

（３）品質について

前年と比較して開花期以降に適度な降雨が見られたことから、紫斑病が発生したほか、病害虫防除所の巡回調査で発生量「やや多」と予想された吸実性カメムシ類、「多」と予想されたオオタバコガ等のチョウ目害虫について、いずれも調査ほの品質調査でも被害粒が確認されたことから、適切な防除を実施していても発生量が多く、例年より被害が大きかったものと考えられます。

タバコガ類による被害　左：葉の食害　中：未展開葉の食害　右被害莢

カメムシ類による被害

２　令和７年産に向けた技術対策

(1) ほ場の準備

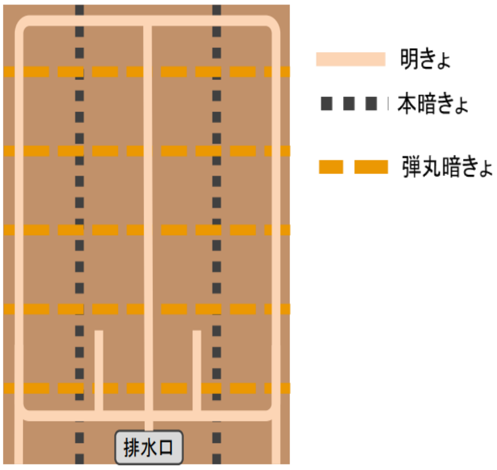
①排水対策　　　排水性の良いほ場をつくり、適期作業につなげましょう。

排水の悪いほ場では、**湿害により出芽不良や生育の停滞**を招くだけでなく、中耕・培土や病害虫・雑草防除等の**適期作業が困難になります**。高収量・高品質の大豆生産のためには、**弾丸暗きょ及び明きょの施工が必要**です

明渠を掘る場合には、確実に排水口につなぎ、停滞水がスムーズに排出されるようにしましょう。

〇地表排水…額縁明きょ、基幹明きょ
明きょは、10～30m間隔、深さ 20～30 ㎝で施工し、排水の悪いほ場では、間隔を 5m以内とします。確実に排水溝につなぐようにしましょう。

〇地下排水…本暗きょ、補助暗きょ（弾丸暗きょ）
弾丸暗きょは、本暗きょと直交するように 2～3m間隔で、地表から 40 ㎝の位置に施工します。明渠を掘る場合には、確実に排水口につなぎ、停滞水がスムーズに排出されるようにしましょう。



②土づくり　　　有機物・石灰・リン酸を施用しましょう

大豆は地力を消耗する作物です。作付け頻度が高くなると地力が消耗し、低収や小粒化の原因となります。また、土壌の酸度（pH）が適正値（pH6.0～6.5）より低いことや、リン酸、石灰分等の不足が低収の要因となることもあるので、適切な土づくりと施肥管理が重要です。

大豆が吸収する窒素の多くを根粒菌による窒素固定に頼っていることから、大豆の増収には、根粒菌の着生と活性の維持も重要なポイントとなります。根粒菌の着生には、リン酸や塩基が多く、土壌酸度が微酸性～中性（pH6.0～6.5）で腐植に富んだ土壌が適しています。

③施肥（基肥量の目安）

表２　施肥量の目安

栽培様式	播種時期	基肥成分量（kg/10a）		
		窒素	リン酸	加里
標播	5月下旬～6月上旬	1.5～2	5～6	6～8
晩播	6月中旬～7月上旬			
晩播（麦後）	6月中旬～7月上旬	2～3	6～9	8～12

※晩播（麦後）は麦稈をすき込む場合

(2) 播種　　各品種の特性に合わせ、適期に播種しましょう

表３　品種別播種様式

品種名		播種期	播種量 kg/10a	条間	株間	栽植本数 本/10a
タチナガハ	標 播	5 月下旬～ 6 月上旬	3.3～4.4	75～80 cm	20～ 25 cm	10,000～ 13,300
ミヤギシロメ			3.8～5.1			

(3) 中耕・培土　　梅雨時期にあたるので、計画的に作業を実施しましょう

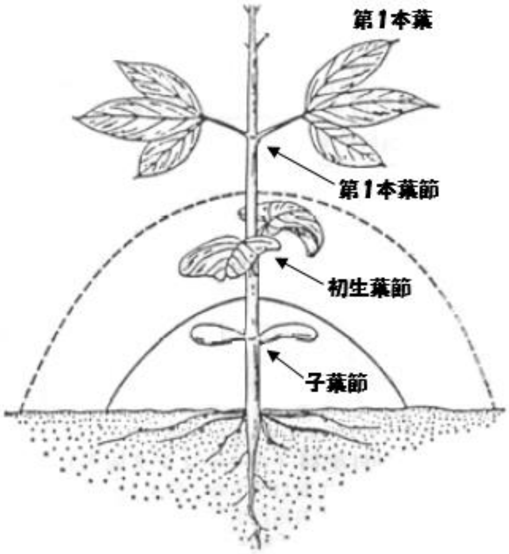


図１　中耕培土の目安

普通栽培
　1 回目：本葉 2～3 葉期に子葉節が隠れる高さまで
　2 回目：6～7 葉期に初生葉が隠れる高さまで
晩播栽培（麦後）
　本葉 5～6 葉期に子葉節が隠れる高さまで

※培土した節から「不定根」が発生し、生育促進、倒伏防止、増収の効果がある他、培土そのものでも、土壌通気性・排水性の改善、除草等の効果があります。

※遅い時期の中耕・培土は、主茎や分枝の損傷、断根により生育に支障を来すため、開花の 10 日前頃までには終了します。

(4) 雑草防除　　雑草対策の第一は、大豆の生育を揃えることです

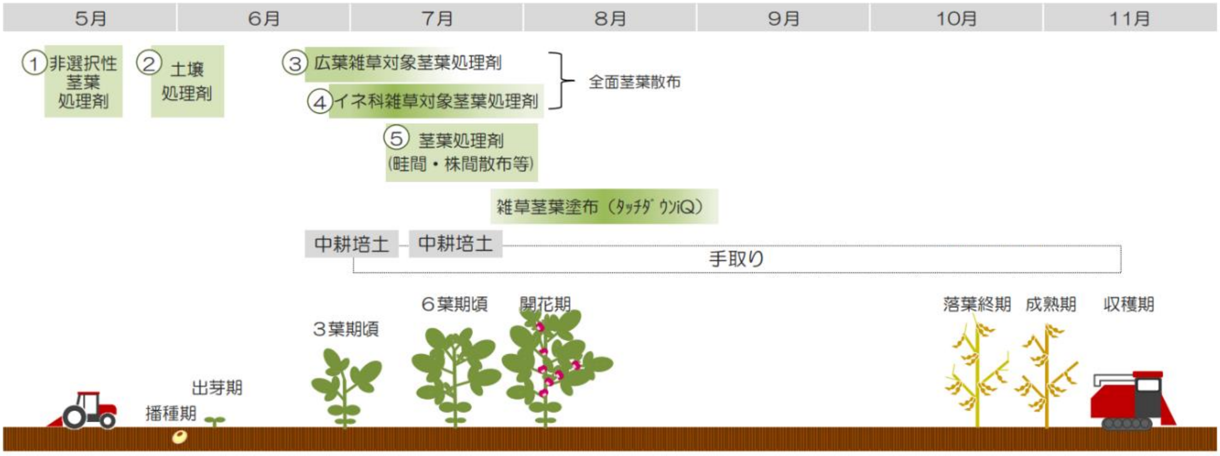


図２　大豆栽培における一般的な防除体系

＜土壌処理剤について＞

　ほ場表面の砕土率が高く、かつ、適度に湿り気のある土壌条件で処理することで安定した除草効果を得ることができます。出芽した雑草には効果が劣るので、使用基準の範囲で、播種後、間を置かずに処理することが重要です。

＜茎葉処理剤による草種ごとの対策＞

茎葉処理剤は、雑草の種類や発生程度等を確認してから散布できるので、必ず、ほ場ごとに発生状況を観察し、高い効果の得られる剤を選択して使用しましょう。また、大豆への薬害や雑草への効果を勘案しながら、各農薬の適用上の使用時期を守って散布しましょう。

表４　茎葉処理剤の処理時期・効果の目安（詳細は宮城県「普及に移す技術」第 94 号を参照）

	アタックショット乳剤	大豆バサグラン液剤	パワーガイザー液剤
シロザ	4葉・5cmまで	2葉・3cmまで（中）	◎
ホソアオゲイトウ	6葉・10cmまで	3葉・3cmまで（中）	◎
イヌホオズキ	10cmまで	6葉・5cmまで（中）	◎
オオイヌタデ	2葉・3cmまで	15cmまで（高）	◎（イヌタデ）
アメリカセンダングサ	ー	20cmまで（高）	◎～○
オオオナモミ	4葉・10cmまで	6葉・15cmまで（中～高）	◎～○（オナモミ）
アレチウリ	5葉・つる化前まで	5葉・つる化前まで（中）	○～△
マメアサガオ	4葉・つる化始まで	3葉・つる化前まで（中）	◎～○
アメリカアサガオ	2葉まで	2葉まで（低）	◎～○
イチビ	6葉・15cmまで	6葉・15cmまで（高）	◎～○
クサネム	1葉・2cmまで	ー	△
ツユクサ	ー	ー	△～×

注１）大豆バサグラン液剤欄の（　）は，低日照時の除草効果の安定性を示す。
注２）パワーガイザー液剤の詳細は，BASFジャパン(株)「パワーガイザー液剤技術資料」を参照。

＜難防除雑草の防除体系＞

近年発生が増えているアレチウリや帰化アサガオ類は出芽後 2～4 週間でつる状になり、大豆につるが絡みついて防除が非常に困難となる雑草です。ほ場内で全面発生してしまうと、土壌中に多量の雑草種子が混入してしまい、大豆の生育期間中に次々と発生してくる特徴もあります。

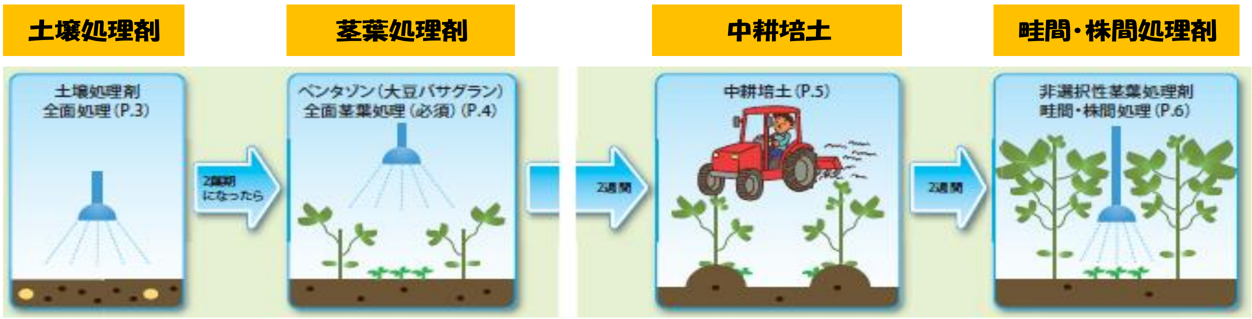


図３　難防除雑草の防除体系概念図

（中央農業研究センター　「大豆畑における帰化アサガオ類の防除技術 Ver. 1」より引用）

始めはほ場外からの侵入や持ち込みにより発生が始まるので、侵入初期の少発生のうちに徹底的に防除することが重要です。単年度の対策としては、大豆の草高が条間と同じ長さに育つ（大豆に覆われる被陰効果により雑草の多くが生育できなくなる目安の時期）まで、何度も除草剤や中耕培土等により防除し続ける必要があります。

(5) 今年作で参考にしたい技術

イ　摘芯栽培・・・・・・蔓化・倒伏を抑制して登熟向上

　ミヤギシロメ栽培において問題となるのは蔓化・倒伏です。摘芯栽培は、摘芯作業機などを用いて生長点より 1 節下を含む高さ（主茎先端より約 10cm 下）で切除する技術で、蔓化及び倒伏軽減効果が期待できます。

　実施の目安は 8 葉期（主茎長 50cm 以上）です。生育量が目安以下の場合、摘芯により減収する可能性があるため、生育量を確認してから行ってください。

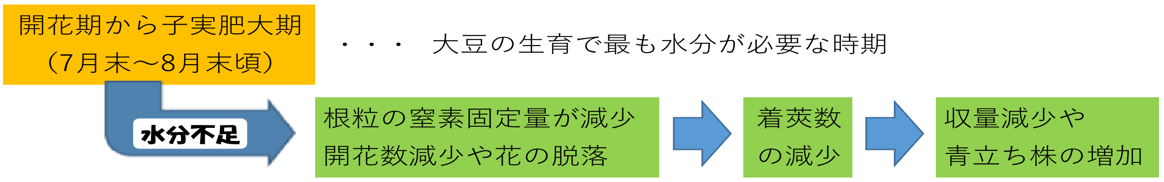
【普及センター現地試験（H28～29）での実施条件】

・品種は「ミヤギシロメ」
・生育量確保のため「5 月中の播種」
・播種量は「5kg/10a（畦幅 75cm、株間 20cm）」
・生育後半の肥切れ防止のため、施肥は「基肥＋開花期追肥」または「鶏ふん＋基肥」（鶏ふん施用量の目安：150kg/10a）
・摘芯時期は大豆 8 葉期

ロ　畦間かん水・・・・・・着莢数を確保して増収

　大豆は、開花期までは排水対策に重点を置いて生育量を確保しますが、開花期以降は干ばつ対策を実施することで、着莢数が増加し、収量増加につなげることができます。

　対策としては、暗きょ栓の開閉（乾燥時は閉め、降水時は開放）管理や畦間かん水の実施があります。畦間かん水では、通水・排水とも速やかに実施する必要があるので、畦間の溝や明きょ・排水溝のつながりについて、実施前に確認しておくことが大切です。なお、もともと地下水位が高いほ場や当該期間の天候次第では逆効果となる場合があるので、実施の際には留意します。



(6) 今後拡大が懸念されるダイズシストセンチュウ

　ダイズシストセンチュウは幼虫が大豆の根に寄生し、養分を吸い取ります。このため大豆は生育不良となり、粒が小さくなったり収量が低下します。シストセンチュウの侵入経路は人や機械に付着した土が原因となります。防除が難しいことから、まずは発生状況を確認し、広がらないようにすることが大切です。

写真左：
根についたダイズシストセンチュウ
写真右：
上段の株はダイズシストセンチュウにより生育不良となっている

宮城 RTK システム利用申し込み受付中！

RTK システム（㎝メートル単位での作業精度を実現する位置情報システム）を活用してより正確な農作業を行いましょう！

1 **配信サービス**：令和 5 年 4 月 1 日から正式運用中

2 **利用申し込み**：令和 5 年 4 月 3 日から通年受付中！

（毎月 20 日を〆切として通年で受け付けます）

3 **契約期間**：利用契約日から令和 10 年 3 月 31 日まで

（契約日は申込月の翌々月 1 日となります）

・負担金は、毎年 1 年分が請求されます。

・契約期間中に ID の追加、取消は可能です。ただし、負担金の払戻及び日割、月割は行いません。

4 **負担金**

ID 発行数	年間負担金額	利用期間の区切
発行 1 つ目（1 台目）	20，000円（税込）/台	4月1日から翌年3月31日（年度単位）
発行 2 つ目以降（2 台目以降）	10，000円（税込）/台	

5 **申込方法**

（1）申込書類：「宮城県 RTK 基地局運営要領」より

①様式1（利用申込書）申込 ID 毎に1部（利用する主なほ場の位置図を添付）

②様式2（契約書）利用者の住所・氏名の記入、押印したもの2部

（2）申込先：公益社団法人みやぎ農業振興公社（郵送又は直接提出）

〒981-0914

仙台市青葉区堤通雨宮町 4 番 17 号（宮城県仙台合同庁舎 9 階）

TEL:022－342－8380（RTK 受付）

みやぎアグリテックアドバイザー派遣事業のご案内

アグリテックの導入、活用や改善に関して、専門家等による有効な助言・指導を行うアドバイザーを派遣します（派遣に要する経費は無料です）。

アグリテックの導入を検討している方は、お気軽に普及センターまでご相談ください。

◇◇◇◇◇　農作業安全確認運動実施中　◇◇◇◇◇

実　施　期　間（春期）：令和 7 年 3 月 1 日～令和 7 年 6 月 30 日

農作業安全確認運動スローガン

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

重点推進テーマ

「学ぼう！正しい安全知識～農業機械作業研修・熱中症対策研修の拡大と充実、未熟練農業者への研修実施～」